

# 河川における浚渫作業について

令和4年度[第34-K2680-01号]

二級河川巴川（本川下流工区）国土強靱化対策（総合流域防災）工事（浚渫工）

(一社)静岡県土木施工管理技士会

株式会社古川組静岡支店

工事部 川口哲也

技術者登録番号：00120281

## はじめに

巴川下流部の河川縦断勾配は 1/1,500 程度でとても緩やかな勾配であり、能島橋（5.0k）付近までは潮の影響を受ける感潮域であるため、水の流れが悪く、周辺の土地では外水氾濫や内水氾濫が起り易い地形をなしている。近年では令和4年9月の台風15号による記録的な豪雨の影響で河川が氾濫し大規模な浸水被害が発生した。本工事は巴川河口部に堆積した土砂を除去し必要な河川断面を確保することを目的とした維持浚渫工事である。

工 事 名：令和4年度[第34-K2680-01号]二級河川巴川

（本川下流工区）国土強靱化対策（総合流域防災）工事（浚渫工）

発 注 者：静岡県静岡土木事務所

工事場所：静岡市清水区築地町 地先

工 期：令和 5年 3 月 21 日 ～ 令和 5年 12 月 8 日

請負金額：154,561,000円

## 工事内容

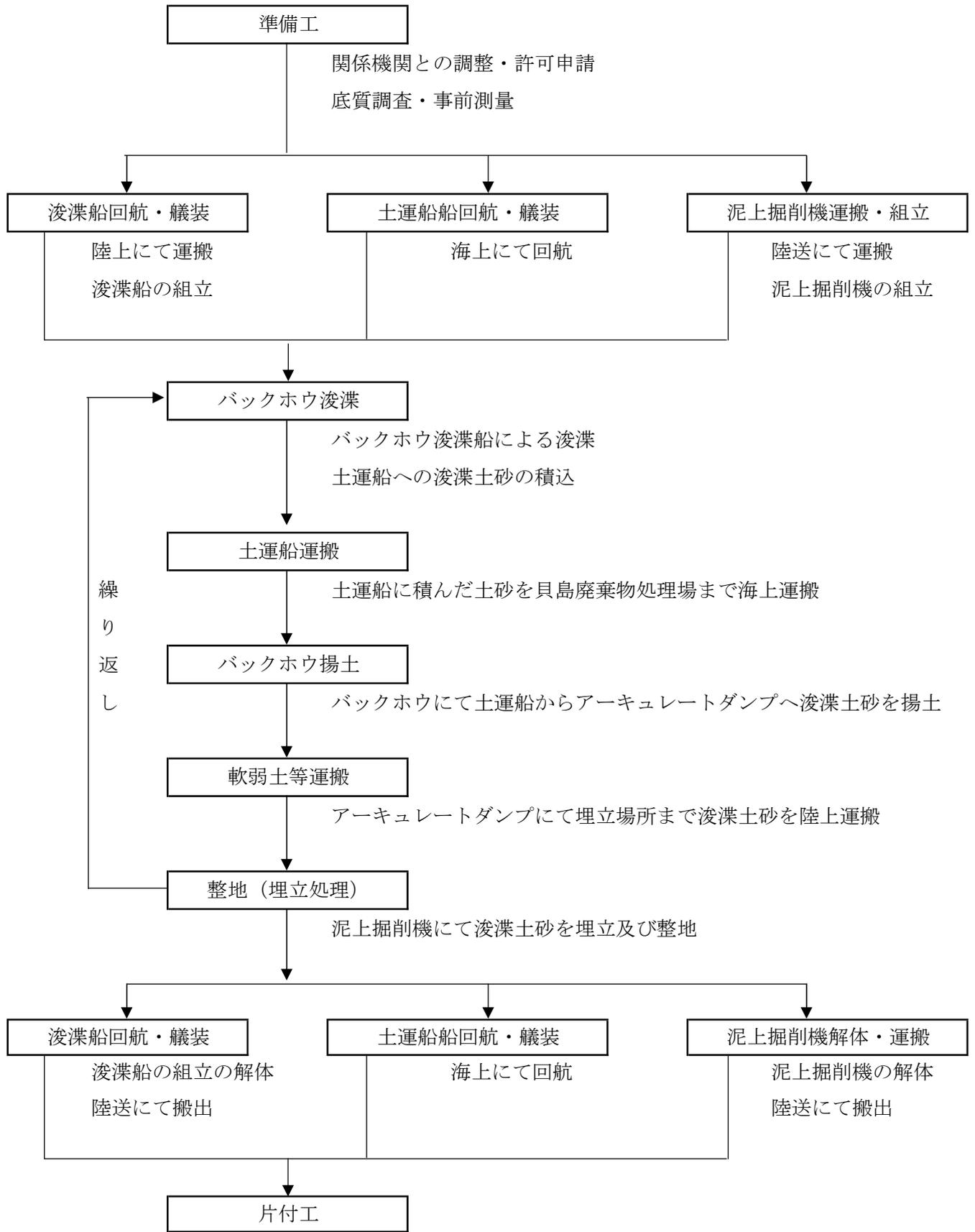
浚渫・運搬・揚土工 19,600 m<sup>3</sup>

## 現場位置図



二級河川巴川河口部(羽衣橋～港橋までの区間)においてバックホウ浚渫船にて河床の掘削を行い、土運船に積込んだ土砂を海上運搬し、貝島廃棄物処理場にてバックホウ揚土をし、背後地まで陸上運搬し埋立を行う工程である。

施工フロー





②-1 アークユレートトラックにて陸上運搬作業を行い運搬車両台数を減らす

運搬車両をアークユレートトラック(25t積)を使用し1台に運べる土量を多くした。軟弱土のため1台当たり10tダンプトラックでは2~3m<sup>3</sup>程度しか運搬できないがアークユレートトラック(25t積)では荷台が深くなっているため1台当たりの運搬で8~12m<sup>3</sup>の土砂を運搬することができたため運搬車両の台数を減少させることができた。また運搬車両を減らすことにより入替時間や積込待ち時間の短縮することができ効率のよい揚土・運搬作業をすることができた。



おわりに

出水期での河川作業であり常に気象状況を監視しながら施工を行った。施工期間中台風や大雨の影響で3回ほど浚渫船団を現場外へ退避をした。近年はリアルタイムの気象情報が安易に入手できるので退避判断がしやすくなったが夏期は突発的な集中豪雨もあるので河川作業は渇水期に行うことができればと思う。最後に今工事に協力して頂いた方々に感謝を申し上げます。